

- 2013/01/28 ポカレル前副首相講演: 憲法政治学研究会
- 2013/01/23 通信業界の複雑怪奇な料金制度
- 2013/01/22 首相 HP, ブロックされる
- 2013/01/21 競争的共存の優しさ: 農民とスズメ
- 2013/01/20 停電 14 時間の明暗
- 2013/01/18 太陽光発電援助, 地味な報道
- 2013/01/15 転轍機を右に切り替えた朝日主筆
- 2013/01/13 ティハール夜景
- 2013/01/11 田園に降り立つ神
- 2013/01/09 憲法・政治学研究会: ネパールと日本の平和と民主主義
- 2013/01/08 講演会: 平和の作り方
- 2013/01/07 「八重の桜」と「同期の桜」
- 2013/01/05 文化の保守と革新
- 2013/01/03 雪の正月と過疎地天気予報
- 2013/01/02 大統領の次は軍総監、訪印
- 2013/01/01 福井原発と京阪神と水上勉
- 2013/01/01 Happy New Year!

ポカレル前副首相講演: 憲法政治学研究会



■会場: 同志社大学



■講演会



■カダガ. KC 氏(左)とポカレル氏(右) / バッタライ大使(左)と BN.アディカリ氏



■京都新聞 1月28日

憲法・政治学研究会 第 542 回例会

日時: 1月27日(日)午後1時-5時

会場: 同志社大学 今出川キャンパス 寧静館5階会議室 (Tel:075-251-3120)

講演1: Ishwor Pokharel (ネパール前副首相兼外相)

「ネパールの平和と民主化への道」

講演2: 上田勝美 (龍谷大学名誉教授)

「日本の平和憲法と民主主義」

コーディネート・通訳: Khadga KC

(トリブヴァン大学政治学部准教授、京都大学 ASAFAS 研究フェロー)

谷川昌幸 (元長崎大学教授)

主催: 憲法・政治学研究会／憲法研究所

<http://www.wld-peace.com/kenpo/kenpo.htm>

2013/01/27 00:43

カテゴリ: [憲法](#), [政党](#)

タグ: [CPN-UML](#), [Pokharel](#), [制憲議会](#), [多党制](#), [平和構築](#)

通信業界の複雑怪奇な料金制度

NTT が「もっとも割」の宣伝をしているので、「何かな？」と思い、してみると――

「ずっと割」

「あつと割」

「ぐつと割」

「もつと割」

「もっともつと割」

などがあつた。もっともつとあるかもしれないが、ばからしくなって、見るのをやめてしまった。

しかし、どうしてこのような複雑怪奇な料金システムになっているのだろうか？ 少々調べたくらいでは、「ずっと」が「ぐつと」より「もつと」安いのか、「もっともつと」安いのか、それとも「あつと」驚くほど安いのか、皆目見当もつかない。

これは NTT だけではあるまい。最先端の、もっとも合理的であるはずの通信業界が、常人の理解力をもってしては理解できないほど複雑な、したがって不合理な料金システムを一方向的に強制している。

なぜか？ おそらくそれは、善良な人民をだまからかし、搾取するのが暗黙の業界了解となっているからであろう。常識で理解できないような業界用語——ジャーゴン——を認めたら、業界の思うつぼ。

しかし、コトバは支配者がつくり、下々に与えるもの。コトバを創造した神に背けないように、現代のコトバ支配者たる通信業界には、抵抗しようもない。人は、ますます弱く、救われないものに貶められていくのだろう。

谷川昌幸(C)

2013/01/23 20:11

カテゴリー: [情報 IT](#), [文化](#)

タグ: [ことば](#), [合理性](#), [料金制度](#)

[首相 HP, ブロックされる](#)


バブラム首相のホームページを見ようとしたら、下記のような警告が出た。たしかに、最高裁判事(定数 15 人)が6人にまで減少するなど、ネパール統治は全般に正統性 (legitimacy) を失いつつあり、バブラム博士の政府も専制的となってきた。しかし、それはそれ、このバ博士 HP ブロックは、なにやろうさんくさい。



URL: <http://www.baburambhattarai.com/>

このWebサイトは、有害なプログラムを転送するか、オンライン詐欺に関係していることが確認されています。

[この画面を閉じる](#)

 このWebサイトには、有害なプログラムの転送やオンライン詐欺の被害を招く危険性があります。このWebサイトにアクセスしますか？

■ マカフィーのブロック

画面

そもそも王様系など、右派サイトはこれまでほとんどブロックされたことがない。ブロックされるのは、たいてい左派系。ネット(の技術者)は、右傾化しているのかな？

そう思いつつも、ネット素人の私には、このような警告を出されると、それを無視し読み進む勇氣はない。おそらく、こうして、某世界超大国の密かなネット介入による世界世論誘導により、世界は全体として無意識のうちに右傾化していくのだろう。世界全体が動けば、基準となる座標軸が動くわけであり、その中にいる人々は気づきようもない。

インテリ博士首相のホームページは、さぞかし立派であろうに、残念なことだ。

谷川昌幸(C)

2013/01/22 16:21

カテゴリ: [マオイスト](#), [情報 IT](#)

タグ: [Bhattarai](#), [右傾化](#), [情報操作](#)

[競争的共存の優しさ: 農民とスズメ](#)

下の写真をご覧ください。これはブンガマティの寺院前広場。一面に粃が広げられ、天日干しが行われている。そのただ中に、一人の女性が先にビニールをつけた長い竹竿をもって、じっと立っている。これは、いったい何をしているのだろうか？



■ 竹竿を持つ女性

(2012-11-22)

あまりにも不思議な光景だったのでしばらく観察していたら、その女性は、粃をついばみにきたハトやスズメを追っ払っているのだということが分かった。とくにスズメはずばしこいので、このような長い竹竿を持っているらしい。

これは印象的な情景だ。11月中旬のカトマンズ周辺では、いたるところで粃が干されており、見張り番(たいてい女性)がついている。この女性のような個性的な道具をもっている人は少ないが、スズメ、ハト、ニワトリなどを追っ払うのが仕事であることに変わらない。

しかし、これは仕事としては実に不効率、不経済である。粃を干している間中、見張っていなければならない。ちょっとでも持ち場を離れると、すぐ鳥たちが寄ってきて粃をついばむ。事実、いたるところで粃がついばまれているのを目撃した。



■仏陀の慈愛の下で糶をついばむハトとスズメ / 糶をついばむニワトリ(ブンガマテイ, 11-22)

いくらネパールでも、ちょっと工夫し、網を張るなどすれば、そのような被害は防止できるはずだ。女性たちも見張り番から解放される。そんな簡単なことも分からないのかな？ そう思って、少々、ネパール農業を軽く見ていた。

しかし、浅はかなのは、私の方であった。ネパール農民も、本気になれば、スズメ、ハト、ニワトリの完全シャットアウトなど、簡単に出来るはずである。それは、まちがいない。ところが、彼らはそうはしない。できるのに、しない。なぜか？

もちろん、推測にすぎないが、ネパールの農民は、収穫を鳥たちと分かち合い、共存を図っているのではないだろうか？ 糶については、鳥たちと農民は競争関係にある。しかし、鳥たちも生きているし、また、たとえばスズメは害虫を食べ、ニワトリは卵を産み、あるいは人間の食料となってくれる。ハトは、実益はほとんどないが、そのかわり「平和」を伝えてくれる(食用になるハトもいるが)。だから農民は、食べられすぎないように追っ払いはするが、鳥たちの食い分は大目に見ているのだ。

つまり、農民の糶番は、鳥たちとの競争的平和共存が目的であり、農民の生きとし生けるものへの限りなき優しさの発現なのである。

経済的には、このネパール式農業は不効率きわまりない。一日がスズメ追いに費やされ、しかも時々はついばまれてしまう。しかし、その代わりに、経済効率を追求してき

た私たちが、無慈悲に見捨て、切り捨ててきたものが、ネパールではまだいたるところで受け継がれ、大切にされている。

推測、憶測かもしれない。読み込みすぎかもしれない。しかし、糶をついばむ鳥たちと、それを追い払いつつも容認している農民を見ていると、ほっと心済み、深く癒やされることはたしかである。よそ者の勝手な感傷にはちがいないが、自然との競争的平和共存の時代がかつてあったし、現にいまもネパールにはあることは、まぎれもない事実である。

谷川昌幸(C)

2013/01/21 20:19

カテゴリ: [社会](#), [経済](#), [文化](#)

タグ: [ブンガマティ](#), [自然との共生](#), [農業](#)

停電 14 時間の明暗

カトマンズ地区が、1 月 19 日より停電 14 時間となった。インドが送電を削減したためらしい。

この停電時間は、月でも週でもなく、毎日 14 時間！ 昨年 of 18 時間の大記録にはまだ及ばないが、それでも驚嘆すべき快挙には違いない。



■ 電柱と送電線

(2012-11-6)

1. 停電強靱社会

ネパールは、14時間停電だろうが18時間停電だろうが、平気だ。世界 No.1 の停電強靱社会といってよいだろう。

しかも、カトマンズはいまや現代的大都市。ケイタイやバスの利便性など、いくつかの点では日本より優れている。数日前、朝日新聞が、印刷紙面と同じものがネット版 PDF で読めるようになったと大宣伝したが、こんなもの、ネパールでは数年前から実現しており、しかも無料。朝日のネット後進性に驚きを禁じ得なかった。このように、いくつかの分野では、カトマンズはすでに日本を追い抜いているのだ。

その大都市カトマンズが、14時間/日停電になっても平気。これは驚くべきことだ。後述のように、別の側面はあるにせよ、この停電強靱社会から学ぶべきものは、決して少なくない。

2. 不便の便利

ネパールでは、スケジュール通りの停電の以外に、突然の停電や不規則な電力変化もよくある。このような環境では、電化製品も学習し、少々の不規則電流ではびくともしない。

昨秋おじゃました友人の家でも、数日前、過電流が流れたらしく、冷蔵庫、電気ポット、照明などが故障していた。しかし、その故障の仕方が素晴らしい。電気ポットは、ボタンで湯を出す部分は壊れたが、ヒーターは生きていて、湯は沸く。つまり、ボタンを押して湯を出すといった反文化的なことさえしようとしなければ、ポットは十分使えるし、事実、家族は当然のように、そのような使い方をしていた。同じく冷蔵庫も、庫内灯が

切れたらしいが、モーターは大丈夫。もともと冷蔵庫内に照明など必要ないのだから、これも平気。

ネパールでは、電圧や周波数の多少の変動など、平気なのだ。日本流の不便は、ここではまったく問題にならない。余計な贅肉取りに役立ち、かえって便利。実に人間的、文化的だ。

3. 強靱社会の裏面

しかし、これは停電の明るい側面。表には裏がある。カトマンズが停電強靱社会であるのは、政府が基礎インフラの整備促進を放棄し、インフラの私化 (privatization) を放任しているからである。

停電になっても、有産階級や外人観光客は大して困らない。なぜなら、金持ちや観光客向けホテルは自家発電装置や蓄電池を備えているから。たとえ停電になっても、ホテルは煌々と背徳の明かりをともし、エアコンさえ作動している。何の心配も不要。

その反面、そんな余裕のない庶民は、暗黒の夜を過ごすか、せいぜいランプかローソク。電力格差、照明格差は、目もくらむばかりだ。

水も同じこと。金持ちは断水など平気。深井戸を掘り汲み出してもよいし、タンクローリーから水を買ってもよい。水道がでるときは、蛇口満開にして自宅の大きな水槽やプールに、しこたま水をため込む。古来の共同水場が涸れようが、川が溝となろうが、関係ない。一方、貧しい庶民は、どぶ川で水浴や洗濯をせざるをえない。水格差は、電力格差以上に深刻といえよう。



■給水車(キルティプール, 2012-11-9)



■水浴・洗濯(バルクー

川, 11-27)

4. ほどほどの難しさ

日本とネパールは、電力と水では過剰と過小の両極端であり、いずれも不健全だ。ときどき停電や断水となり、電気や水道のありがたさを思い起こさせてくれるくらいが、ちょうどよい。

しかし、中庸は、古来、もっとも難しい美德。まったくもって人間の強欲は度しがたい。

【参照】[停電](#)

谷川昌幸(C)

2013/01/20 11:39

カテゴリ: [社会](#), [経済](#), [文化](#)

タグ: [インフラ](#), [停電](#), [水道](#)

[太陽光発電援助, 地味な報道](#)

日本援助の太陽光発電プラントが完成し、1月11日、ネパール側に引き渡された。各紙報道によると、概要は次の通り。

- ・設置場所:ドビガード。ラリトプルのバグマティ河畔
- ・発電能力:680Kw

- ・電力用途:カトマンズ盆地上水道公社(KUKL), および一般電力網への送電
- ・事業費:5.38 億ルピー

太陽光発電は機器の価格も急速に下がってきており, ネパールにとっても, 近い将来, 有望なエネルギー源となるであろう。その意味で, この援助は先駆的と評価されよう。

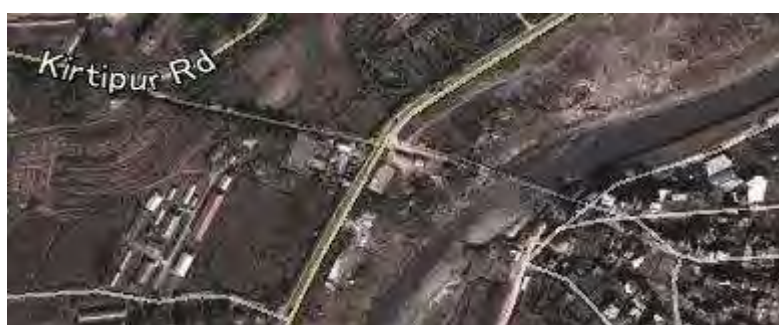
その一方, 今回も, 報道は極めて地味だった。各紙の記事はごく小さく, これでは気づかなかった人も少なくあるまい。

昨年 11 月 26 日午後, 現地付近を歩いてみた。バグマティ河畔は荒涼としていて, 散乱するゴミに枯れ木のカラス, まるで賽の河原。午後の日差しポカポカなのに, あまりの不気味さで寒気がした。

そのバグマティ川西側のダクシンカリ道路に面して「カトマンズ盆地上水道公社」があり, その一角に今回の太陽光発電援助事業の説明板が掲示してある。しかし, これも地味。注意していないと, 見落としてしまう。

援助広報がどうあるべきかは, たしかに難しい課題であろう。やらないと, 日本の援助努力が一般の人々に知られないままとなるし, 今回のような先駆的的案件だと, ネパールの人々が将来のエネルギーを考えるための問題提起, 選択肢提示の役割を十分に果たせないことにもなる。

日本人の奥ゆかしさは美德ではあるが, 多様な異文化のせめぎ合う世界社会にあつては, 効果的な援助広報にもう少し努力することも必要ではないだろうか。



■KUKL 付近(Google)



■ バグマティ河畔の仏像とカラス(2012-11-26)



■ KUKL(Google) / バグマティ東河畔設置の発電パネル(?)。(Google)



■ KUKL 構内の援助事業説明パネル(11-26)

ル(11-26)



■ 上掲写真左上部分(11-26)

谷川昌幸(C)

2013/01/17 11:51

カテゴリ: [経済](#), [外交](#)

タグ: [太陽光発電](#), [広報](#), [援助](#)

[転轍機を右に切り替えた朝日主筆](#)

朝日新聞 1 月 12 日付朝刊は、若宮啓文主筆の文章を、1 面左 8 段と 13 面全段全ページ(広告なし)に掲載している。1 面タイトル:『改憲』で刺激 避ける時、13 面タイトル:「私の見た政治の 40 年」。1 月 16 日退任を前にしての文章ということだが、いくら主筆とはいえ、「社会の公器」たる新聞紙面を、こんな「私事」に使用してよいのだろうか？

1. 無内容な「私が見た政治の40年」

13面(オピニオン)には、全ページびっしりと、1970年以降の若宮主筆の「思い」が書き連ねてある。内容的には、この間の日本政治史のおさらいであり、通読には相当の忍耐が求められる。この程度のことであれば、ネットの方が、無料で、はるかに要領よく、詳しく解説してくれている。

2. 曖昧社説による進路切り替え

問題は1面の文章。そもそも『改憲』で刺激 避ける時」というタイトルが、意味不明。改憲問題について、若宮主筆はいったいどのような意見を持っているのか？ こんな風に書かれている——

「憲法9条では自衛隊の説明がつきにくいことから、憲法のあり方が論じられてきたのは無理もない。……9条を改めることがすべて危険だなどとは思わない。」

この曖昧な立場から、朝日新聞は2007年の「社説21」により、自衛隊違憲論から合法論へと社説を切り替えた。朝日は長きにわたり自衛隊違憲論を採り護憲世論をリードしてきた。産経や読売の改憲論とはわけが違う。朝日変説のインパクトは強烈であり、これにより護憲派は総崩れとなった。

3. 無責任な変節

この朝日の変説は、正確には、むしろ「変節」である。状況が変化した場合、説を変えることがあるのは当然だ。この場合、変説の理由が合理的に説明されるなら、賛否は別にして、少なくとも説を変えたことそれ自体は理解できる。ところが、朝日の変説には合理的な説明はなく、したがってそれは許されざる「変節」である。

若宮主筆は、こう言い訳をしている——

「少々分かりにくさがあっても9条は変えず、自衛隊は軍隊としない方がよいと結論づけ、2007年5月3日に『社説21』をお届けした。……自衛隊をきちんと位置づけるため、準憲法的な平和安全保障基本法の制定も唱えた。」

「分かりにくさ」とは、いったい何か？ 国家の基本法たる憲法、しかも最も危険な「軍隊」の憲法規定について「分かりにくさ」を認めながら、その曖昧な憲法解釈に基づき「準憲法的な平和安全保障基本法」で自衛隊の合法化をはかる。若宮主筆は、「平和安全保障法」の合憲性について、あるいはより根源的には日本における「法の支配」について、どのように考えておられるのか？ こんな曖昧な憲法解釈で「暴力装置」たる自衛隊がコントロールできると、本当に考えておられるのだろうか？

4. 右に切り替えられた進路

「社説 21」あるいは若宮主筆の議論は、護憲派にとっては致命的な打撃となった。これにより輻輳機は右に切り替えられたが、まさに「少々分かりにくさ」があるがゆえに、護憲派にとっては批判しやすく、改憲派にとっては攻撃しやすかった。改憲派は朝日変説の不合理的を攻撃しつつ、「変節」の実は巧みに、貪欲に、すくい取った。「社説 21」以降、日本世論の進路は改憲へと切り替えられ、もはや逆転は少々のことでは望めそうにない状況となっている。

「改憲で刺激」をしたのは、産経や読売というよりはむしろ、「社説 21」あるいは若宮主筆である。その反省なしに、刺激を「避ける時」とは、いったいどういうことなのか？ お得意のマッチポンプではないのか？

5. 「社説 21」の撤回を

「私事」を語る暇があったら、「社説 21」を撤回し、「改憲で刺激」の元凶を自ら取り除くべきである。そもそも憲法9条に「分かりにくさ」など、みじんもない。もし分からなければ、小学校に行き、虚心坦懐に生徒に教えを請うべきであろう。

【参照】

- [海外派兵を煽る朝日社説](#)
- [良心的兵役拒否国家から地球貢献国家へ:朝日の変節](#)
- [朝日社説の陸自スーダン派兵論](#)

谷川昌幸(C)

2013/01/14 11:22

カテゴリ: [平和](#), [憲法](#)

タグ: [若宮](#), [9条](#), [改憲](#), [朝日](#)

[ティハール夜景](#)

ティハールは、光の祭典。証文の出し遅れのようなのだが、暗く寒い冬に光を願うのは人の自然。下掲写真は、キルティプールの丘から見た 2012 年 11 月のティハールのカトマンズ。



谷川昌幸(C)

2013/01/13 00:27

カテゴリ: [文化](#), [旅行](#)

タグ: [ティハール](#)

[田園に降り立つ神](#)

2012 年 11 月 9 日午後, キルティプール西方, バルクー川をさかのぼり, サラスワティ寺ノマハデブ寺付近の茶店の外で茶をすすり, 何となく田園風景を眺めていた。風もなくポカポカ, 快適な小春日和。

ちょうど稲の取り入れ。あちこちで稲刈り，脱穀，稲藁たばねが行われている。稲作以外の田畑や空き地には，菜の花，マリゴールド，ブーゲンビリア，ラルパテなど，花々が咲き乱れている。その向こうには，「秋霞」にぼんやりと，煉瓦工場の煙突が浮かんでいる。幻想的な田園風景。



■幻想的な田園風景 マリゴールド・菜の花・煉瓦工場煙突

と，そのとき突然，何の前触れもなく，目の前の田圃で農作業をする女性二人のそばから，稲藁がふあふわと浮き上がり，頭上付近を舞い，やがて空高く飛び去っていった。女性たちはあつけにとられ，呆然と，ただ眺めるだけ。これは神風だ！ 稲の収穫をご覧になった神が，田圃に降り立ち，農民を祝福し，再び天空へと舞い上られたにちがいない。

いまどき，こんなことを言うと，「非科学的」，「神がかり」などとバカにされるだろうが，小春日和の幻想的な田園風景の中に神を見ない者こそ，不幸である。局地的な小さな上昇気流が発生した——そんな「科学的」説明には，何のリアリティもない。



■稲藁：浮き上がり、頭上を舞い、天空へ

谷川昌幸(C)

2013/01/11 14:01

カテゴリー: [宗教](#), [文化](#), [旅行](#)

タグ: [キルティプール](#), [レンガ](#), [神話](#), [稲作](#), [農業](#)

憲法・政治学研究会：ネパールと日本の平和と民主主義

「ネパールの平和と民主化への道」 イシュワル・ポカレル(ネパール前副首相)
「日本の平和憲法と民主主義の課題」 上田勝美(龍谷大学名誉教授)

日時:1月27日(日)13:00-17:00

場所: [同志社大学今出川キャンパス「寧静館」5階会議室](#)
地下鉄烏丸線「今出川」下車、電話:075-251-3120

主催:[憲法・政治学研究会](#)／[憲法研究所](#)

■参加費無料。ご来聴歓迎。

2013/01/09 11:36

講演会：平和のつくり方

「ネパールの平和と民主化の道」

I. ポカレル前副首相兼外相

1月28日 18:00-20:00 教育文化会館(長崎市)

2013/01/08 13:53

カテゴリ: [ネパール](#), [平和](#), [民主主義](#)

タグ: [Pokharel](#)



平和のつくり方 講演会

ネパールは長い内戦をのりこえ、平和復興会の下で新しい国づくりを始めています。貧困と失業した武器勢力、中国、インドという核保有国に囲まれたネパールでの平和構築は、決してたやすいものではありません。しかし、日本国憲法を手本に平和憲法を制定し、教育の力で、平和と民主主義を実現しようとしています。

一方、日本は平和憲法を押し去ろうとする勢力が跋扈し、核兵器の保有を公言するありさまです。長崎市民の願う平和と核廃絶を実現するにはどうしたらいいのでしょうか。今回、ネパールの民主化の先頭に立つ政治家、イッシュワール・ポカレルさんと、ビッシュマ・アディカリさんをお招きして、お話をさせていただくことにしました。

いっしょに「平和のつくり方」を考えてみませんか？

お友達をお誘い合わせの上、ぜひご参加ください！！

と き：2013年1月28日(月) 18時～20時

と ころ：教育文化会館2階 大会議室(長崎市筑後町2-1)

講 演：☆イッシュワール・ポカレルさん(ネパール前副首相兼外務大臣)

「ネパールの平和と民主化の道」

☆ビッシュマ・アディカリさん(ネパール国会議員、医師)

「核廃絶に向けて」

☆日本人研究者(未定)

「日本国憲法について」

(通訳)カドカケージ(トリプバン大学政治学准教授、

現在京都大学に研究員として在籍)

参加費：無料



お問い合わせ先

池田享子政務調査事務所

〒850-0052 長崎市筑後町2-1

「八重の桜」と「同期の桜」

日本放送協会 (Japan Broadcasting Corporation, NHK) がハデな大宣伝をしているので、「八重の桜」を観てみた。なんたる空騒ぎ、無惨な失敗作となる悪い予感がする。

まず冒頭の「つかみ」、「驚き」がない。どんな作品でも、最初に「あれ！これは何かな？」と興味を引きつけなければ、まず失敗である。小説、随筆などでも、傑作は「書き出し」がよい。これは、作品の鉄則。

ところが、「八重の桜」の冒頭は、南北戦争。時代背景を説明するためなのだろうが、最初から逃げであり、しかもド派手な戦闘場面の連続。こんな劇画のノリで描くと、米国民から抗議されかねない。まったくもって稚拙。

同じことが、メインテーマの「幕末のジャンヌ・ダルク」についても、いえる。女が鉄砲を持つ——つまり人を殺す——には、相当の内面的葛藤があってしかるべきだが、そんな気配は寸毫もない。そんな面倒なことはスーと素通りし、いたいけない少女が人形をほしがるように鉄砲をねだり鉄砲にほおずりする。そりゃ、ないだろう。あんまりだ。

子供だって、鉄砲の弾が当たればどうなるか位は想像する。子供時代を思い起こしてほしい。子供は大人以上に繊細であり、人や動物が傷つき、苦しみ、死ぬことの悲惨を直感的に知っている。子供をバカにしてはいけぬ。それなのに、脳天気の子供を描くから、リアリティがまるでない。絵空事だ。

他の場面にしても、映像表現に自信がないらしく、やたら「語り」が出てくる。場面、場面をいちいちナレーションで説明しなければ、その意味がわからないのだ。無惨といわざるを得ない。

さらにまた、スローモーションも多用されている。スローは、ここぞというときに使用してはじめて効果を発揮する。それなのに、いたるところスローだらけ、まるで安物劇画だ。

そして、これは坂本龍一／中島ノブユキの責任ではないであろうが、音楽がやたら多用されている。といっても、音楽そのものはよく出来ている。出来すぎといってもよいくらいだ。しかし、いくらなんでも使いすぎであり、これでは背景音楽ではなく、音楽のための背景映像だ。「八重の桜」ではなく、「坂本／中島音楽の桜吹雪」と言ったところ。

むろん、これはまだ初回。先は長い。くれぐれも、**右傾化時代迎合の「同期の桜」女性版**とならないことを願っている。それゆけどんどんの「幕末ジャンヌ・ダルク」や戦意高揚「篤志看護婦」など、みたくもない。



■ リアリティなき樹上の八重 (NHK・HP より)

谷川昌幸(C)

カテゴリー: [文化](#)

タグ: [リアリティ](#), [軍国主義](#), [NHK](#), [八重の桜](#), [右傾化](#), [同期の桜](#), [坂本龍一](#), [愛国心](#), [戦意高揚](#)

[自衛隊員の「つぶやき」: 万人監視社会への警鐘](#)

朝日新聞(1月6日)が連載「ビリオメディア」で、ツイッターやフェイスブックの危険性を指摘している。私のようなネット素人にとっても、この程度のことなら常識だが、その常識ですら度外視して無防備無警戒、丸裸でツイッターやフェイスブックを利用している人が少なくないらしい。

1. 海自隊員の「つぶやき」

朝日記事によれば、記者はツイッターとフェイスブックに海上自衛隊員が投稿しているのを見かけた。そこには、**実名**で、**制服姿の自分の写真**と**ケイタイ電話番号**が記載されている。第13護衛隊「あさゆき」乗り組み隊員らしい。

その彼が、外洋航海日程をフェイスブックに記載し、またツイッターでは、2012年12月10日13時5分に、北朝鮮「ミサイル」発射警戒作戦に関する自艦の情報をつぶやいた。

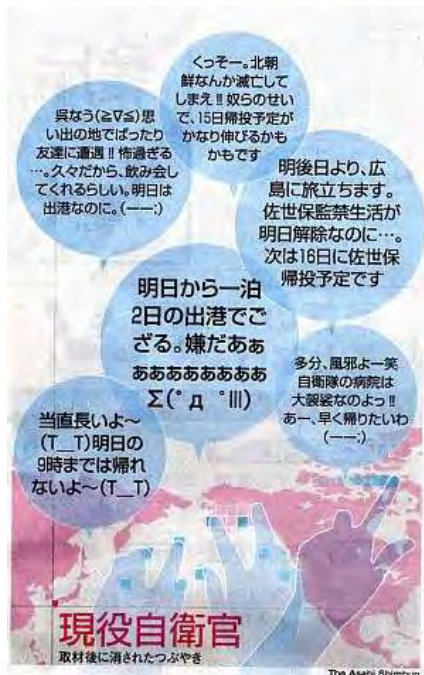
われわれ善良なる国民にとっては、24万自衛隊員が、フェイスブックやツイッターで自衛隊の作戦や日々の行動をつぶさに報告してくれれば、これほど有り難いことはない。暴力装置たる自衛隊が丸裸になり、文民統制も可能となるからだ。(もともと、私自身は、文民統制はあまり信用していない。プロの自衛隊よりも、むしろ素人の文民(国民)の方が好戦的となりやすく、危険な場合が少なくないからである。)

しかし、それはそれとして、海自隊員の幼児なみの情報管理能力には、正直、たまげた。こうしたことは、情報重視の米軍が見過ぐすはずはなく、自衛隊はますます信用を失い、米軍から重要情報は得られなくなる。情報ジャジャ漏れ自衛隊は、われら善良なる国民にとっては好ましいが、自衛隊自身にとっては深刻な由々しき事態であろう。

海自隊員のツイッターとフェイスブックへの記載は、朝日記者が防衛省取材を始めるとすぐ、消去されたという。おそらく上官から厳しく叱責され、あわてて削除したのだろう。

2. 消去しても消去されないネット情報

しかし、ツイッターやフェイスブックの危険性は、本人は消去したつもりでも、実際には消去されていないことだ。事実、朝日記者は、本人の承諾なく、下図のような「つぶやき」を新聞紙面に転載している。おそらく、ツイッターとフェイスブックの記事をコピーし保存しているのだろう。この程度のことは、ネット素人の私にでも、簡単にできる。



■ 自衛官「つぶやき」転載記事(朝日新聞

2013-1-6)

そして、これは素人にはよくわからないことだが、おそらくツイッターにせよフェイスブックにせよ、たとえ本人が削除しても、記載情報は何らかの形で運営者側に残されており、利用しようと思えば利用できるのではないか、ということ。もしそうであれば、第三者によるコピー配布に加え、こうした形でも、記載情報は利用される。ネット情報は、投稿の瞬間、自分の手を離れ、コントロール不能となる。そう覚悟すべきであろう。

3. 権力と企業による利用

そして、もう一つの危険は、ツイッターやフェイスブックは、内外の権力機関や企業により監視され、分析されているということ。朝日記事は、北九州市の「つぶやき」監視や、経産省資源エネルギー庁の「つぶやき」収集を紹介しているが、これも常識といってよいだろう。

むろん、多くの方は、そんなことは自分には無関係と思っているに違いない。たしかに、もし特殊な情報機関や秘密機関などだけであれば、監視のターゲットとなるのは、テロリストや過激派など「特殊な」少数の人々だけであろうが、もし省庁や市役所、あるいは警察、学校、町内会などが日常的に「ネット監視サービス」を利用し始めると、もはや誰一人として無関係といっておれなくなる。それは、万人が万人を監視する清潔安全なユートピアの到来である。

4. ネット情報 + 盗撮カメラ + IC 免許証

フェイスブックの写真やツイッターの「つぶやき」は、街中にあふれる盗撮(防犯)カメラ映像と組み合わせられると、さらに具体的、正確となる。あるいは、それらにIC 免許証を組み合わせると、ほぼ完璧といってよいだろう。誰が何を考え、どこで、何をしているかが、丸見えだ。

フェイスブックやツイッターは、いったん投稿したら、もはや取り返しがつかない。写真や記事を誰がどう使おうが、投稿者には、どうすることもできない。朝日記事を見ても、それは明白である。

谷川昌幸(C)

2013/01/06 18:32

カテゴリ: [社会](#), [情報 IT](#), [文化](#)

タグ: [ツイッター](#), [フェイスブック](#), [ユートピア](#), [監視社会](#), [自衛隊](#), [免許証](#), [情報化](#), [機密](#)

文化の保守と革新

カトマンズの近現代はすさまじく、もはや古き良き古都の面影はほとんど残っていない。これは統計局向かいにできた巨大商業ビル。およそ文化的ではない。



■統計局前の巨大ビル

(2012-11-18)

こうした近現代の風景を望遠レンズで切り捨てると、たとえば、かろうじてこのような景色を拾い出すことができるにすぎない。



■旧王宮広場前の屋

上喫茶より望むスワヤンブー(2012-11-6)

これは京都も同じ。先日、久し振りに烏丸四条～御池付近を歩いたら、近現代的ビルにほとんど建て替えられ、非文化的な無個性な街に様変わりしていた。

言い古されたことだが、日本は世界でもまれな保守思想の薄弱な国。「古いもの」を平気で破壊し、「新しいもの」に置き換えていく。日本は、時とともに流れ流されていく、根無し草の国なのだ。天皇が天壤無窮の「根」だと言う人もいるが、天皇は丸山真男が論証したように「からっぽ」であり、保守思想の「根」とははなりえない。

京都には、日本における保守思想の薄弱を実証するものが他にも無数ある。たとえば、二条駅。旧二条駅は、寺院風の巨大木造駅舎であったのに、高架複線化を錦の御旗に、あっという間に破壊され、平凡無粋な新駅にされてしまった。もし二条駅が保存されていたら、修復された東京駅の少なくとも数倍の価値があり、京都観光の目玉の一つになっていたはずだ。まことに、残念。



■二条駅・新／旧(wiki)

同じく京都北部の北京都タンゴ鉄道(旧国鉄宮津線)。かつては各村に、おそらく村民総出で建てたであろう、趣のある木造駅舎があったのに、民営化と引き替えの手切れ金で、何の変哲もない画一的な近現代的駅舎に建て替えられてしまった。

たとえば、「山椒大夫」の舞台ともなった、風光明媚な丹後由良の駅舎。これでは鴟外先生も草葉の陰で涙されているに違いない。あるいはまた、天橋立・阿蘇海と桜とトンネルの情緒豊かであった岩滝口駅。それが、この惨状、見る影もない。いま北京都タンゴ鉄道は、むなしく空気を運び、駅舎は閑散としている。



■丹後由良駅(2013-1-4)



■岩滝口駅(2013-1-4)

もしかりに、10 駅ほど、いや2～3 駅でも昔のままの駅舎が修復保存され、利用されていたら、全国の「鉄の男」や「鉄の女」がわんさと押しかけ、田舎の村々はにぎわっていたはずだ。九州の、偶然に残った木造駅舎の人気をみても、それはまず間違いあるまい。かえすがえすも残念だ。

この点、たとえば保守本家の英国は、偉い。原則として、古いものを修復して使う。文化は保守であり、保守が強靱であればあるほど、また強烈な革新も生まれる。ビートルズのように。文化の革新のためにも、保守に値する「古いもの」は頑固に保守されなければならないだろう。

谷川昌幸(C)

2013/01/05 18:35

カテゴリ: [文化](#), [旅行](#), [歴史](#)

タグ: [鉄道](#), [革新](#), [駅](#), [建築](#), [丹後](#), [京都](#), [保守](#)

[雪の正月と過疎地天気予報](#)

今年の正月は、雪となった。地球温暖化は、丹後の気候も大きく変えた。1960 年頃までは、わが村でも積雪1mは珍しくなく、交通全面ストップ、屋根から落下した雪で1階から出られなくなったり、ときには下敷きとなり死者すら出ることもあった。

ところが、最近は、あまり積もらない。天気予報は、いまだに 1960 年代頃までの降雪記録に囚われているらしい。実感としては、豪雪ラインは 200-300km北上している。過疎地は、天気予報も手抜きされているのではないだろうか？



■ 自宅前庭のオンボロ愛車



■ 雪が怖い過保護愛犬

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)

2013/01/03 13:59

カテゴリ: [文化](#)

タグ: [過疎](#), [天気予報](#), [温暖化](#)

[大統領の次は軍総監、訪印](#)

1. ヤダブ大統領帰国

ヤダブ大統領が12月29日帰国した。あちこち駆け回ったが、どうやら適当にあしらわれ、支援確約は得られなかったらしい。

とにかく、大統領は軽〜い。12月29日は、大統領が定めた諸党合意選挙決定の期限だったが、完全無視。仕方なく、大統領は次の期限を1月4日まで延期した。これで7回目だ。つまり、どの政党も大統領のいうことなど、屁の突っ張りにもならないと、バカにしているのだ。

したたかなのは、やはりわれらがプラチャンダ議長。制憲議会選挙ではなく、解散議会の復活を唱え、自らが首相に返り咲く目論見だ。議会復活は、解散議会議員にとって、タナボタ、こんなおいしい話はない。とくに最大勢力だったマオイストにとっては。やはり、プラチャンダ議長はセンスがよい。バブラム首相も、結局は、コマとして利用されているのではないか。

2. ラナ軍総監の訪印

大統領の次の訪印は、ラナ軍総監。1月6～16日の予定。表向きは、「名誉将軍」称号を受けるためだが、印のご意向伺いが主目的であることは間違いない。

国軍は、マオイスト人民解放軍が完全解体されたいま、名実ともに最強組織となった。選挙実施となれば、もはや外国は愛想を尽かしているので、次は国軍が治安維持に当たらざるをえないだろう。

印とすれば、政党政治が安定せず、軍を介してネパールを自在にコントロールできる現状は、むしろ願ってもない状態ではないだろうか。



■ラナ軍総監(軍 HP)

【参照】Yubaraj Ghimire, “Deli’ s message is clear,” The Indian Express, 2013-01-01

2013/01/02 22:06

カテゴリー: [インド](#), [外交](#)

タグ: [軍](#), [大統領](#)

[福井原発と京阪神と水上勉](#)

京都新聞元旦特集の一つは、「原発にノー」。それによると、御用鈍足ソフト「SPEEDI」の予測でも、京都市の一部は放射性物質汚染区域に入る。が、これでもなお嘘くさい。放射性物質が、そんなに都合よく予測範囲内に収まるとは考えにくく、実際には風向きによっては京都市、大阪市、神戸市にも広く濃く降下すると考えるべきだろう。

というよりもむしろ、丹後生まれの私の実感からすると、京阪神が原発風下になる確率は、もっともっと高いように思う。低気圧や台風でも、風向きは大きく変わる。京都新聞元旦特集でも、まだなお「不都合な真実」は隠されているのではないか？

福井原発については、大飯出身の水上勉がその差別性を厳しく批判していた。若狭は、京阪神など都市により収奪され、貧困に陥れられ、蔑視され、あげくはその尻ぬぐいをさせられている。贅沢三昧、浪費都市の電力は誰がつくっているのか？

水上勉の地方差別批判は問題の本質を突いている。もし自民党、産業界、都市住民が原発をつくりたいなら、まずは東京湾岸、大阪湾岸につくるべきだ。地産地消。もしつukれないなら、それは若狭でも青森でも、危険なのだ。原発は、地方蔑視の最たるものである。



■高浜原発拡散予測:3月(京都新聞 2013-1-1)



■高浜原発拡散予測:2月(京都新聞 2013-1-1)



■関西道路図(NEXCO)。この位置関係からして、京都・大阪・神戸・奈良・大津が拡散範囲に入らないのは不自然。SPEEDIより庶民実感の方が予測能力ははるかに高いのではないかと？

【参照】

- ▼ [構造的暴力としての原発:堀江邦夫『原発ジプシー』](#)
- ▼ [風力発電も原発もイヤだな](#)
- ▼ [原発報道, 朝日とネパリタイムズ](#)
- ▼ [青森沖セシウム汚染魚の報道姿勢](#)
- ▼ [権力監視下のネット社会:原子力安全規制情報](#)
- ▼ [早川教授訓告処分は大学自治の自殺行為](#)
- ▼ [ネパール大使館, 大阪に退避](#)

谷川昌幸(C)

2013/01/01 15:38

カテゴリ: [経済](#), [人権](#)

タグ: [若狭](#), [電力](#), [原発](#), [地方蔑視](#), [水上勉](#)

Happy New Year!



2013/01/01 10:15

カテゴリー: [ネパール](#)

タグ: [kathmandu](#)